

区政と議会のホンネを報告!

せたがや 1/50

〒157-0063 粕谷 3-15-3 (TEL&FAX 3307-1179)

グーグル検索等で、おおば正明 と入力すれば おおば正明 @ 世田谷区議 がヒットします。私のホームページです。

区が取り組むべき事業

- 1位 災害に強いまちづくり
- 2位 防犯・地域安全の対策
- 3位 高齢者福祉

役所情報・不正そのほかとんでもないことを御存知の方はメールで

(2013年区民意識調査より) 110ban@t3.rim.or.jp

<http://www.t3.rim.or.jp/~110ban/>
<http://ooba.muse.bindsite.jp/>

世田谷行革 110番

世田谷区議会議員 おおば正明

第53号 2014年4月

首都直下地震火災は世田谷の問題 気になりませんか 地図の赤い部分?



左は昨年12月20日の日本経済新聞。前日に中央防災会議が発表した首都直下地震の被害想定を新聞の1面を使って伝えています。

新聞ではかなり大きな地図ですが世田谷区がどこなのか、よくわかりません。(日経以外の新聞も同じ。)

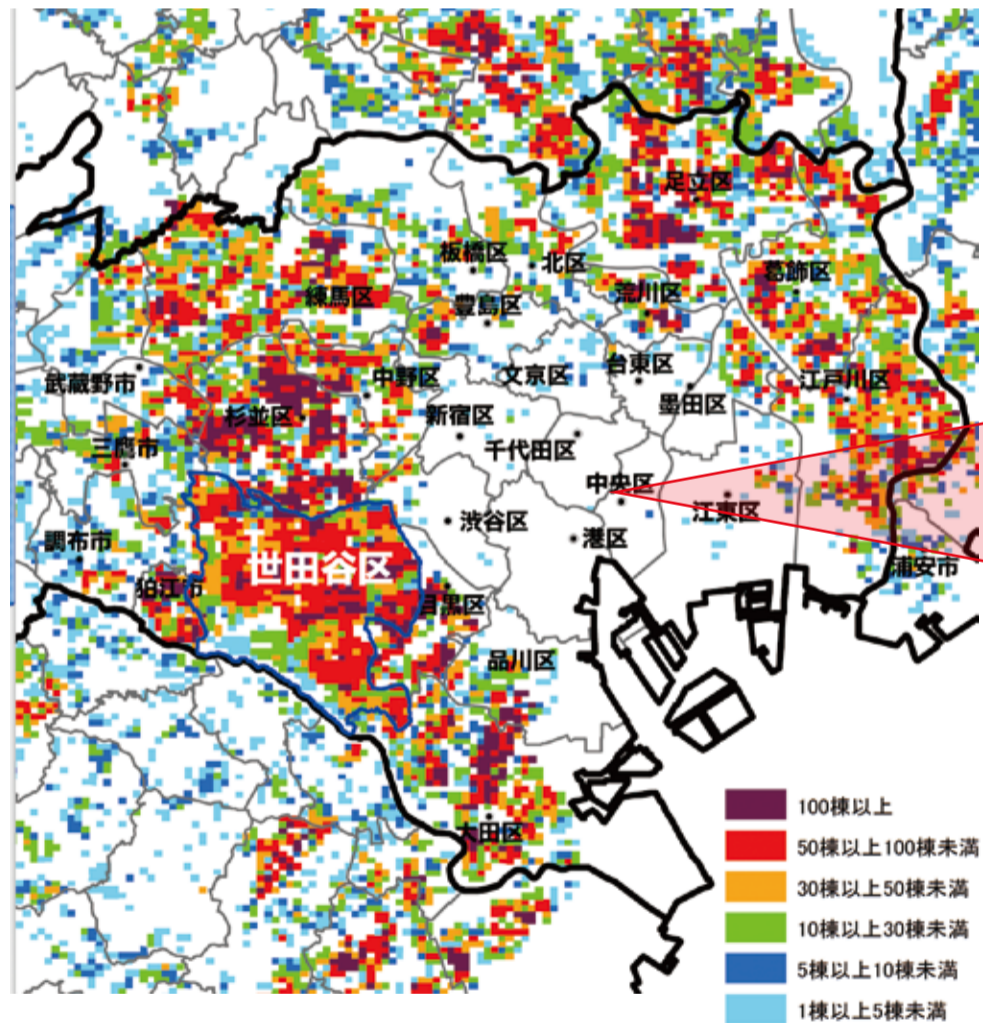
そこで中央防災会議の資料データに、区名を入れたのが下の図です。

世田谷区が真っ赤なのが一目瞭然でわかります。

そうです。首都直下の最大の被害地域(火災焼失地域)は何と世田谷区ということを示しているのです。

上の地図の部分拡大すると下の図になります。

出典 中央防災会議 首都直下地震対策検討ワーキング・グループ資料より



被害図の見方 250mメッシュ別の焼失棟数

被害想定的前提は、都心南部を震源とする首都直下地震。発生時は冬の夕方。風速は毎

風速 (m/s)	陸上の状態
5.5m~7.9m	砂埃が立ち、紙片が舞い上がる
8.0m~10.7m	樹木が揺れ始める

秒8m。(右上は気象庁の風力階級表より) 被害状況は250mメッシュでどれくらいの焼失棟数があるかで区分されています。

250mメッシュとは1周(1km)約15分で回れる区域と考えれば、わかりやすいと思いますが、その中で100棟以上が焼失するのが紫色。50棟以上100棟未満が焼失するのが赤色です。

あくまでも一つの目安

中央防災会議の被害想定といっても、火災の予測は当日の風向き一つでいくらか変わります。

ただ世田谷区は人口も多く地震火災が発生しやすい地域であることだけは注意する必要があります。



消防活動困難地域

実は今年2月25日の代表質問で初めて世田谷区内の消防活動困難地域の問題を取り上げました。これは国土交通省と都の資料を元に世田谷区が作成したのですが、世田谷区は左下図のように、真ん中を左右に横切る黒い線(世田谷通り)を境に

上下(南北)で道路事情が全く異なります。そのことが消防活動の困難さに比例しています。

ホースは届く

世田谷通りから北側の地域で、道路事情の困難さを実感している方は少ないと思いますが、実際、消防署に確かめたところ、現状では消防車が入れなくてもホースが火災現場に届かない地域は世田谷ではないそうです。つまり困難であっても消火活動はできるのです。ただし時間はかかる。



消火の基本は1軒で制圧

たとえ時間がかかってでも発災家屋だけの焼失が基本で、世田谷の消防も

1軒だけの火災で消火を終えられるとしています。現に防火水槽は木造住宅1軒分の消火力として40トンの水量が基本です。それでも区内には51ヶ地域で防火水槽が設置されていません。

世田谷区内に消防車は何台?

区内には、世田谷消防署、玉川消防署、成城消防署の3つありますが、それら全部の消防車(ポンプ車)をあわせても24台です。区内の火災件数は少し古いですが平成21年の統計で274件です。(そのうちの最大原因が60件の放火というのも驚きですが)それでも平時での24台は十分な数でしょう。

被害想定の意味するところ

中央防災会議の被害想定が出されたのが昨年12月。

東京都は既に平成24年4月に東日本大震災の教訓を元に地域防災計画の修正をしています。それに基づいて世田谷区の首都直下地震における火災は2万1千棟となっています。最初の発災件数がどれほどであっても、24台の消防車では対応できないのは明らかです。

中央防災会議の資料では、地域住民が防災意識を高め初期消火に務めることができれば、被害を20分の1に抑えることが可能だとしています。(それでも区内の火災被害は1000件ということに...)※言うまでもありませんが、世田谷区の保坂区長は防災に一切関心を示していません。即ち無策です。平成24年に東京都の地域防災計画の修正が出て、無反応、それどころか首都直下地震対策のカナメの部署を廃部にして経費を浮かしたと自慢する始末。また地域防災の住民組織の条例案もまとめ切らずに投げ出す始末。この3年間、他自治体が必死になって対策を講じているのに世田谷区は無策なのです。